

子どもと算数を創る

— 算数のよさの実感を伴う算数的活動 —

< 算数的活動について >

課題意識をもち、それを「より便利に」の視点で追究し続ける中で、その対象に向かうかかわりが数学的に深まり、算数のよさを実感していく一連の活動

「操作」を通して数理が高まる活動

数理の高まりは、「一番簡単なのは?」「形や数字を変えてみたら...」といった「操作」の繰り返しの中で生じてくるものである。特に、対象を回したり、並べ替えたり、ずらしたりする具体的な操作活動は、子どもにとって、算数のよさを現物でもって実感できることから、どの学年においてもどの単元においても重視して位置付けていきたい。

数理の高まり

具体的操作(現物実験)

念頭操作(思考実験)

算数的活動

子どもとともに算数を創り出していく活動

対象に対して主体的に動き始めるのは、自分なりにはたらきかけることで分からないことが見えたり、先行経験が揺らいだりして「問い」が生まれてきたときである。よって、過不足の条件を提示したり、未習と既習が明確になるようにしたりして、対象との出会いを工夫していく必要がある。

異なる考え方や考えた結果を妥当性・関連性・有効性の視点で比較・検討する場を設定することによって、相互啓発に至るコミュニケーションが活性化し、より便利な数理が創られていくと考える。